

第1回策定委員会でのアンケート（案）に対する主な意見とその対応

意見	対応
質問の量が多い。	内容を精査し、設問の数を13問から6問に削減し、量を減らしました。
知識がないと答えるのが困難な内容である。	立地適正化計画や土地利用条例などなじみがなく、知識を有するであろう設問を削除しました。
難しい言葉を使うのは市民アンケートにはふさわしくないと思うので、そのあたりを考慮していただきたい。	難しい言葉はできる限りわかりやすい表現に修正しました。
人口減少が起きる中で、地域、市をどのようにしたいのかという内容の質問が欲しい	広域的拠点（問3）、地域拠点（問4）、市全体（問6）で今後のまちづくりに何が重要かを問う設問を設定しました。
個人にはそぐわない内容の質問など整理と分量の削減が必要と考える。	問2で、お住まいの地域（おおむね住民自治協議会の区域）の生活環境についての満足度、重要度の設問を再整理しました。また、設問数を3問から1問にしました。
どのような生活が望まれているのかを知る質問が必要がある。	問2、問6では重要度、問3、問4では今後どのようなまちづくりが重要かを問う設問を設けました。
問題点を具体的に聞くことはできないか。	例えば問3のように、現状や問題点などの文章を追記することで、具体性を表現しました。
連携協定を締結していることを踏まえた設問が必要ではないか。	問5で、医療、買い物等の利用場所として市外を設定しました。
誰が見てもわかりやすく、答えられるアンケートが望ましい。	文字サイズを大きくする、ひらがなを付ける、行間を開けるといった対応をしました。